

令和6年度 地域・日本の新たなレガシー形成事業
-「日本一の神話のまち高千穂」「いにしえ」から現在、未来へ-

日本一の神話のまちづくり構想

事業報告書 <概要>

2025年3月17日

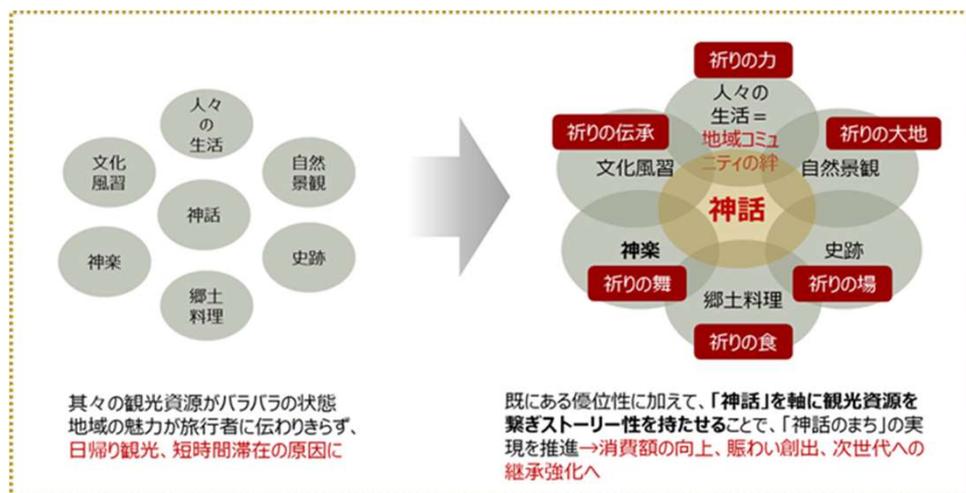
国土交通省九州運輸局

1. 事業の目的と事業内容

(1) 高千穂町におけるレガシー形成の必要性

高千穂町では、「神話のまち」として、これまで日本神話や神楽をテーマとした体験プログラムやツアー造成、ブランドムービーの制作など様々な取組みが行われてきたが、**神話に基づく史跡・棚田を活かした農業などの生活文化資源の活用**などによる、賑わい創出・滞在時間の延長・地域経済の活性化および伝統の継承等は十分なものではなかった。

将来にわたり国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながる地域を目指すため、高千穂町で脈々と受け継がれてきた自然・景観、食、文化、遺産（日本遺産、重要文化財、伝統技術等）等を、面的または線的に再現し、活用していくレガシー形成が必要である。



(2) 本事業の業務構成

本事業では、以下の業務を行い、「神話のまち」の今後の方向性について関係者による検討会を通して議論し、構想（ロードマップ）として整理した。

業務1	レガシー形成に向けた各種調査の実施／課題の整理
<p>➤ 神話や神楽を軸に「日本一の神話のまち」を形成していくにあたり、以下の必要となる調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">① 地域の現状調査（来訪者調査／町民調査／事業者調査／その他データ分析）② 文献に基づく史跡、地域文化などの調査（有識者による「古事記」・「日本書紀」等の文献調査）③ 実現可能性調査（有識者・専門家ヒアリングなど）	
業務2	「神話のまち」のコンセプト・ストーリーの検討
<p>➤ 文献に基づく史跡等、地域資源の整理の結果を踏まえ、有識者との検討を通して、それらを面的に結ぶための「神話のまち」のストーリーづくりを行った。</p>	
業務3	「日本一の神話のまちづくり構想」の策定
<p>➤ 調査結果、及び「神話のまち」のコンセプト等についての検討会での議論を通して、「神話のまち」の形成に必要なランドデザインと具体的な取り組みの方向性の検討を行い、構想案を作成した。</p>	

2. レガシー形成に向けた各種調査結果の結果概要

(1) 来訪者調査

高千穂町来訪者に対し、旅行目的・旅行内容と、神話・神楽等への関心度、高千穂観光の満足度等を確認し、神話・神楽の観光資源としてのポテンシャルと、受入環境整備に対するニーズ等を確認した。調査設計は以下の通り。

調査概要

- 調査対象者：調査期間中に高千穂町内の主要観光地を訪れた国内旅行者
- 調査手法：高千穂峡、高千穂神社駐車場、天岩戸神社西本宮鳥居前の来訪者に対し、調査員により自記式調査票での回答を依頼／ストリートインターセプト法
- 調査期間：2024年11月9日(土)・10日(日)
- サンプルサイズ：239s

結果概要

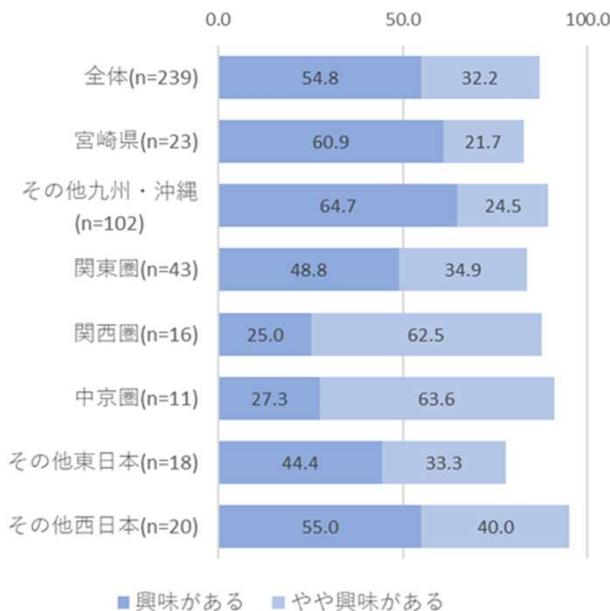
「やや興味がある」を含め、日本神話のゆかりの地としての高千穂町については全体の87.0%、高千穂夜神楽については74.9%が興味があるとしており、興味度は全体的に高いが、いずれの興味度も「興味がある」とする積極的評価のみでみると、宮崎県、九州エリア居住者に対し、関東圏、その他エリアの評価が大きく下回っている。

また、「やや満足」までを含めると来訪者の大半が満足と評価しており、再来訪意向、推奨意向もともに高い。ただし、「大変満足」とする積極的評価は29.9%程度となっており、項目別の評価を見ると、「高千穂町内の移動」、「案内表示や観光情報」の評価が相対的に低い。

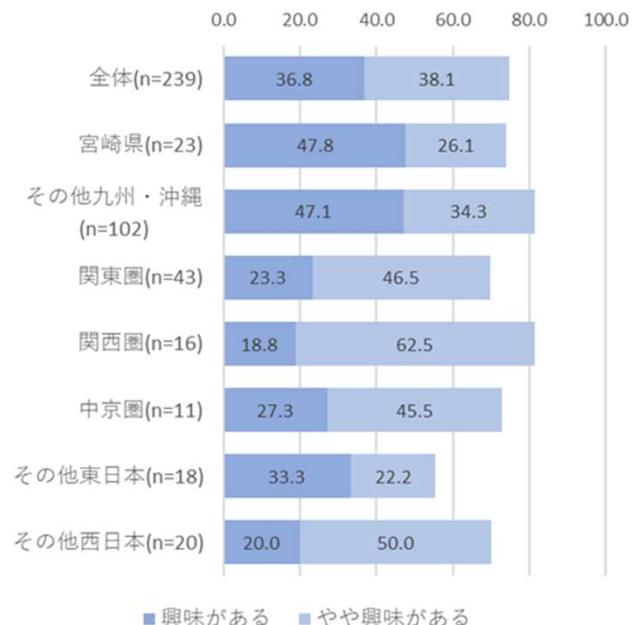
👉 **神話・神楽に強い関心を持つ来訪者は宮崎県・九州エリア居住者が多い。**

👉 **来訪者の満足度は高いが、積極的に評価している来訪者は少ない。特に、町内の移動や情報提供が課題。**

【日本神話ゆかりの地としての高千穂町への興味度】



【高千穂夜神楽への興味度】



2. レガシー形成に向けた各種調査結果の結果概要

(2)高千穂町民調査

高千穂町民に対し、神話・神楽や文化活動への関与度、観光振興に対する意識、神楽継承の取り組み等を確認し、神話・神楽を活用した観光まちづくりに対する町民の参加意向や意見等を把握した。調査設計は以下の通り。

調査概要

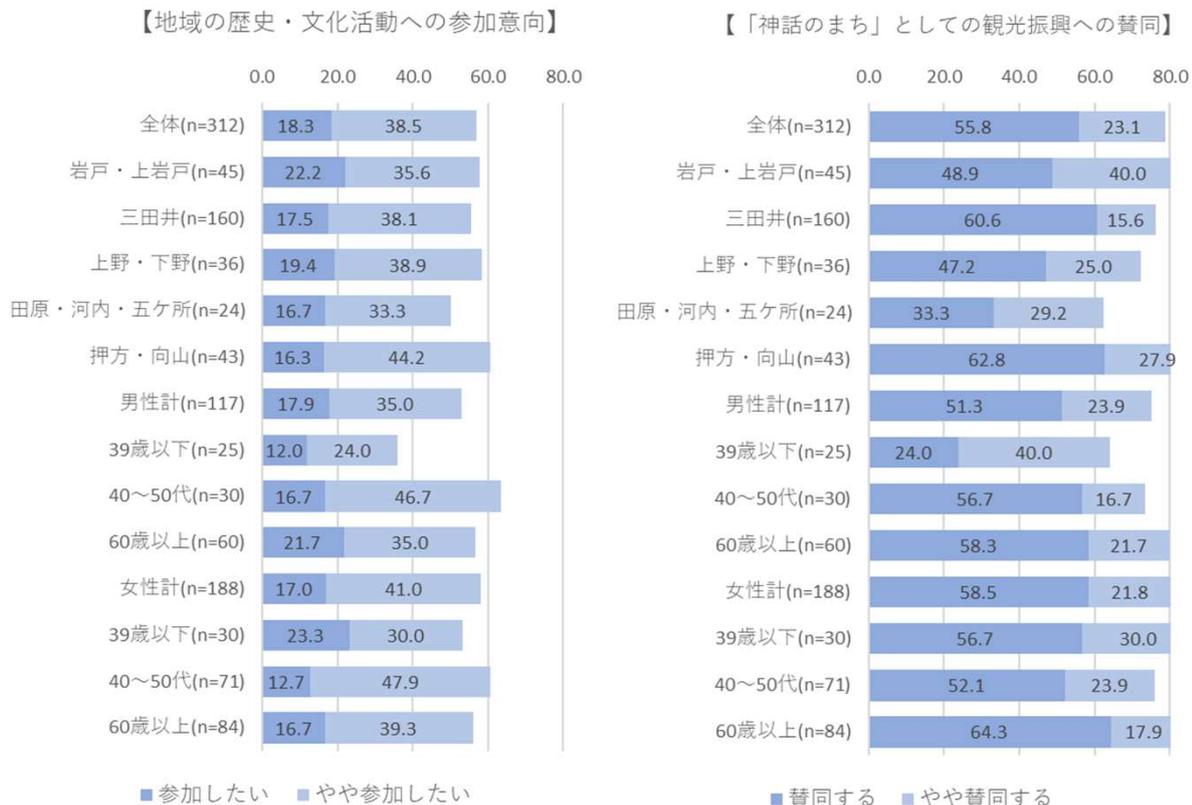
- 調査対象者：高千穂町民
- 調査手法：以下の調査地点において、調査員により高千穂町民に対し自記式調査票への回答を依頼
- 調査実施日：2024年11月30日（土）14：00～18：00、12月1日（日）11：00～18：00
- サンプルサイズ：239s

結果概要

夜神楽の活動については全体の30.4%、神楽以外の歴史・文化活動については19.6%が参加しているとしており、いずれも39歳以下男女の参加率が全体平均を大きく下回っている。

地域の歴史文化活動への参加については全体の56.8%が意向を示しているが、39歳以下男性では36.0%と全体を大きく下回っている。同様にこの層では、「神話のまち」としての観光振興への賛同についても、積極的に評価している人が少ない傾向が見られる。

👉「神話のまち」としての観光振興には町民の8割が賛同しているが、若年男性の取り組みへの参加意向の低さが懸念される。



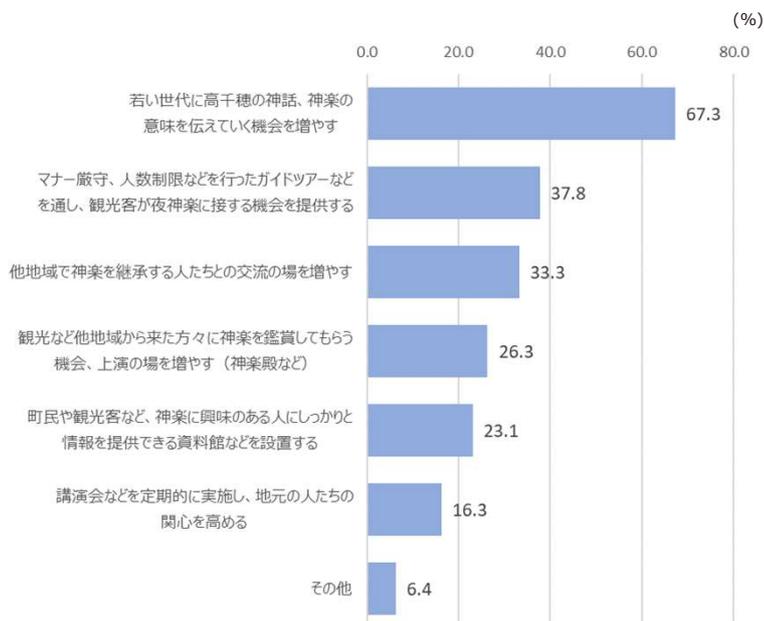
2. レガシー形成に向けた各種調査結果の結果概要

(2)高千穂町民調査

結果概要

神楽の継承において必要と思う取り組みとしては、「若い世代に高千穂の神話・神楽の意味を伝えていく機会を増やす」が67.3%と最も多く、「マナー厳守、人数制限などを行ったガイドツアーなどを通し、観光客が夜神楽に接する機会を提供する」37.8%、「他地域で神楽を継承する人たちとの交流の場を増やす」33.3%等が次いでいる。

自由回答により挙げられた、高千穂の観光に関する意見・懸念点の概要は以下の通りであり、食や交通インフラ、域内の移動等についてのコメントが多く挙げられた。



- ☞ 神楽の継承については、観光や他地域との交流を通して取り組みが必要と考える人も多い。
- ☞ 高千穂町の観光振興についての懸念としては、飲食店・宿泊施設が不足していること、交通インフラの整備が十分でないことその他、住民が観光活動に参画していないことから、地域全体の活性化に繋がっていないという指摘も見られる

高千穂の観光に関する意見・観光振興における懸念点など

- **飲食店と宿泊施設の不足:**
観光客数に比して、食事を提供する場所や宿泊施設が少なく、特に昼食や夕食の選択肢が限られている。また、営業時間が短い店舗も多く、夜間の観光客対応が不十分である。
- **駐車場不足:**
観光地では駐車場の数が限られており、特に高千穂峡周辺では混雑が多く見られ、これが観光客にとっての大きな障害となっている。
- **交通インフラ:**
バスやタクシーなどの交通手段が不足しており、観光客の移動に不便が生じている。
- **交通マナーの問題:**
特に県外からの観光客、インバウンド観光客において、運転マナーや駐車の問題が顕著であり、交通事故の懸念もある。
- **観光案内の不足:**
観光案内所の位置が分かりにくく、また案内表示が少ないため、観光客が必要な情報を得にくい状況にある。
- **地域住民の参加:**
地域住民の観光活動への積極的な参加が少なく、イベントや活動が地域全体の活性化に繋がりにくい状況にある。

2. レガシー形成に向けた各種調査結果の結果概要

(2)高千穂事業者調査

高千穂町の主要な事業者の意見を把握することを目的とし、高千穂町の観光振興に関する意見や懸念点、「神話の町」としての観光振興に対する賛同度や方向性、新たな観光施設や環境整備に対するニーズ等を確認した。調査設計は以下の通り。

調査概要

- 調査対象者：高千穂町商工会および高千穂町観光協会の会員事業者
- 調査手法：会員に対しオンライン回答画面での回答を依頼
- 調査実施日：2024年10月28日（月）～11月19日（火）
- サンプルサイズ：30s

結果概要

高千穂町の観光振興については、76.7%が「観光客が増えると、まちに活気が出るので、観光振興は継続していくべき」としており、40.0%が現状では「十分な観光客は来ておらず、これまで以上の観光振興が必要」としている。なお、「観光客が増えることで、自身にも経済的なメリットがある」とする事業者は半数である。

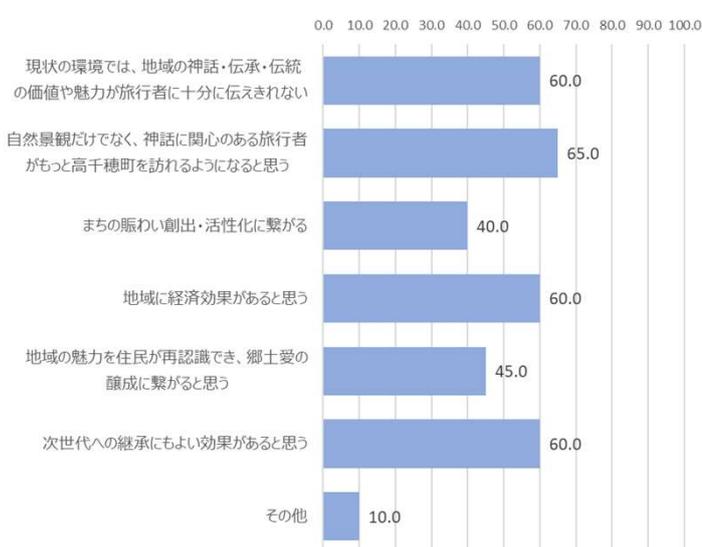
高千穂の観光振興に対する意見・懸念点としては、町民調査と同様、飲食施設・宿泊施設の不足、主要集客スポットでの売店等商業施設の不足、駐車場の不足などが挙げられており、結果的に観光客数に対して経済効果が低いという指摘も見られる。また、町民を巻き込めていない点、他地域と比べた高千穂の差別化が不十分である点、世界情勢や災害等への備えの必要性などのコメントも挙げられている。

『神話のまち』としての観光振興については、「やや賛同する」を含め、全体の93.4%と大半が『神話のまち』としての町の資源を活用した観光振興に賛同するとしている。賛同理由としては、観光による経済効果に加え、神楽をはじめとする地域の文化・伝統の継承、町民の意識の向上等への観光の寄与が期待されている。

「どちらかといえば必要」を含め、全体の7割弱が『神話のまち』を実現するために、町内に新たな施設や環境整備が必要としている。自由回答の内容を見ると、移動手段、駐車場、飲食施設、宿泊施設、案内情報等の受入環境の整備とともに、神楽を伝承する施設についてのコメントも比較的多く挙げられている。

神楽の伝承施設については、情報の提供、神楽の観賞のみでなく、実際に神楽を体験できたり、高千穂の歴史・文化体験等、機能面についてのアイデアも挙げられている。

【当たな施設・環境整備が必要な理由】



神楽を伝承する施設についてのコメント

- ・神楽、村の歴史などが分かるような施設（スペース）
- ・神楽の衣装を着て舞の体験や太鼓、笛にふれてみる施設
- ・神楽伝承館、文化館
- ・神話ミュージアム等を建設したらどうか
- ・神話にちなんだお土産等々
- ・駐車場の整備と神楽や伝統に特化した施設
- ・日中でも神楽に触れられる伝承館の様な施設があると良い
- ・日中でも神楽や日向神話に触れられる、又は体感出来る施設、例えば【伝承館】のような施設があると良い
- ・歩いていける販売店や飲食店の集まりがある道作り。
- ・例えば高千穂の夜神楽や神話の伝承館など、一般観光客だけでなく修学旅行など団体の受け入れも可能な施設。

2. レガシー形成に向けた各種調査結果の結果概要

前述の各種調査結果、その他オープンデータの分析等をもとに、「神話のまち」としての高千穂の観光振興における課題を整理し、今後の施策展開の方向性について検討を行った。

SWOT分析

強み (S)	弱み (W)
<ul style="list-style-type: none"> > 認知度が高く、来訪意向も高い > 古事記等に記載されている神話にまつわる神社・史跡がある > 棚田、国見ヶ丘などの景観資源 > 各集落に継承される夜神楽 > 神話・神楽による強いシビックプライド > 高千穂峡など集客力・収益力のあるスポットの存在 	<ul style="list-style-type: none"> > 歴史的正当性の解釈のみに頼った神話・神楽の訴求 > 神楽等継承者・担い手不足 > 若年男性の継承意識の衰退 > 高千穂の食材・郷土料理など食 > 二次交通・地域内交通／案内表示 > 宿泊施設の量、バリエーションが少ない > 飲食店の数の少なさ > 観光振興によるベネフィットの地域差／不公平感
<ul style="list-style-type: none"> > 地域の歴史・文化、生活など、より深く地域を体験したい旅行者の増加（国内外ともに） > テーマ性、目的性の高い旅行を求める層の増加 > 高付加価値な旅行を志向するインバウンドの増加 > 文化財の活用、高付加価値化に対する観光政策による支援の充実／JNTOなどによる情報発信 > サステナビリティ意識の世界的な高まり 	<ul style="list-style-type: none"> > 観光政策による文化財の活用、高付加価値化などの全国的な展開による競合環境の激化 > 人口減少による地域内の各種産業の継承者の減少 > 不安定な世界情勢、大規模災害等のリスク
機会 (O)	脅威 (T)



クロスSWOT分析／施策展開の方向性

	強み	弱み
機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在も町民のプライドとなっている神話・神楽を軸に、現在の高千穂町民の生活・文化も含めたストーリーづくり（情報の再編集） ● ストーリーに紐づいたコンテンツの造成 ● ターゲットを定めた効果的プロモーション展開（インバウンドにおけるJNTOとの連携、神話・神楽等のファンとの関係づくりなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 神話・神楽に紐づけることのできる地域資源の再考とストーリー化（地域の生活文化、食など） ● 各集落の夜神楽の継承、文化財の保全に寄与する施策（仕掛け）の計画と実施 ● 観光振興によるベネフィットを町民、事業者の多くが感じることのできる効果の検証と共有 ● 受入環境の整備／宿泊、飲食など地域内産業の活性化
脅威	<ul style="list-style-type: none"> ● 神話・神楽＋高千穂のイメージづけ（高千穂の圧倒的ポジショニング） ● 高千穂との旅行者の関係構築（CRM）のための仕掛けづくり（関係人口等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブランディングや施策の拠点機能を持つ「場」、主体の検討

2. 「神話のまち」のコンセプト・ストーリーの検討

有識者による史跡や地域資源についての「古事記」、「日本書紀」等の文献調査の結果と、それが、現在の高千穂の人々との生活にどのようにつながっているかなどを整理した上で、ターゲットを想定し、「神話のまち」としての今後の取り組みを紐づける軸となるストーリーづくりを行った。

具体的には、神話や神楽などに関心のある直接のターゲットのみでなく、地域の生活文化・歴史等に関心を持つ国内外の旅行者をターゲットと想定した。

ターゲットイメージ：地域の生活文化・歴史に高い関心を持つ国内外の旅行者

- | | |
|-----------------------------|----------|
| ・知的好奇心が強い（より深くその地域のことが知りたい） | ・本物志向 |
| ・旅先では地域の人との交流を求める | ・体験志向 |
| | ・文化度の高い人 |

コンセプト・ストーリーに織り込むべき2つの視点

視点1：旅行者が訪問することで得られる価値：

日本のはじまりとされる高千穂での「神話」と「神話に紐づく生活文化資源」の体験や地域の人々の交流を通じて、人との絆、自然との共生、祈りがもたらす力の源を五感を通じて体感できる

視点2：地域が地域の魅力を旅行者に提供することで得られる価値：

- 「神話」と「神話に紐づく生活文化資源」をストーリー性に基づいて面的に観光振興に活用することで、地域の文化に関心の高い「高品質な旅行者」を誘客することが可能となる
- 地域の人々が大切に思い、次世代に継承していきたい地域の宝が内外から認知され評価されることで、地域愛がさらに醸成され、地域の若い世代への意識変容や交流人口・関係人口の増加に繋げる

"祈り"が紡ぐ絆と神話のまち 高千穂

高千穂の風景に溶け込む全ての存在は、すべてが<神話>に繋がっています。
神話のまちと呼ばれるこの高千穂では、幾千年にも渡り数多の神がこの地を守り続けてきました。

険しい自然環境の中で急斜面に田を作り、水を引き、作物を育て、皆で力を合わせてこの地を豊かにしてきた高千穂の人々の生活には、常に「神への感謝と祈り」があります。

日本神話において“天孫がこの国を治めていく第一歩”と語り伝えられる穂觸山（神社）や高千穂峡の神秘的な溪谷、神々によってもたらされた稲作文化と自然との共生の象徴である棚田風景、八百万の神々が天岩戸を開く相談をした所と伝えられる天安河原など、様々な自然景観や史跡も、神話の舞台として訪れる人々を魅了します。

神話は、単なる過去の物語ではなく、地域の人々の日々の暮らしに深く根付いています。五穀豊穡に感謝する祭りや、夜神楽で演じられる神話の舞は、現代の生活と神話が一体となった姿を象徴しています。地域の人々は、共に協力し合い、助け合いながら、日々の生活の中で祈りを通じて共に神話を守り、次世代へと伝えていきます。

旅行者は、高千穂を訪れることで、単に観光地を巡るだけでなく、神への祈りとともに豊かに生きる地域の生活文化や、地域コミュニティの絆を深く体感できます。

祈りの場：「神社」、祈りの舞：「神楽」、祈りの力：「地域コミュニティの絆」、祈りの食：「神楽うどん」...

<神への祈りとともにある生活>は、地域住民同士の心を繋ぐだけでなく、訪れる人々にも温かな交流の場を提供するでしょう。現代の都市生活では失われがちな「人と人、人と自然との絆」を感じさせるこの町は、訪れる人々に祈りがもたらす力を教えてくれる特別な場所です。

3. 「日本一の神話のまちづくり構想」の策定

本事業における各種調査結果から確認できる神話・神楽を軸とした観光振興における高千穂町の課題と、今後検討が必要な事項・具体的な施策について以下の通り整理した。

①神話・神楽を軸とした高千穂の魅力の再整理

神話や神楽は、高千穂町の町民の誇りとなっていることが、町民調査により改めて確認することができた。また、来訪者調査の結果でも、神話・神楽に対する興味度は高いことが確認できたが、居住地区による興味度の差（九州・宮崎県居住者に対し、他エリアの興味度が低い）や、歴史・伝統等のイメージが自然イメージを大きく下回っていることなどからも、観光市場において、**高千穂＝神話・神楽のイメージは決して強いものではない**ことが窺える。

古事記・日本書紀の裏付けのある史跡は、重要な意味を持ち、それ自体で価値のあるものであるが、そこに興味を持ち高千穂を訪れるのは、歴史好き、教育旅行、主要スポットを巡る団体ツアーに留まり、**神話・神楽を継承する町民の方々の誇りや現在の高千穂の魅力を十分に伝えるものではない**。

一方で、観光の潮流の変化に伴い、よりその地域の生活や文化に触れたいと考える旅行者が増加している。これらの層をターゲットと想定し、高千穂町内の人々の営みや文化を神話・神楽とつなげることで、高千穂の魅力（ストーリー）を再編集する必要がある。

次年度の取り組み

①神話、神楽に関連する資源の更なる検証

今年度事業では、高千穂町全体での神話、神楽、その他関連資源についてリストアップを行い、「神話のまち」を軸とした高千穂町としてのストーリーを作成したが、町内の各地区で見ると、資源の更なるリストアップと、その価値の検証が重要である。（第1回として岩戸地区における史跡・伝説の検証など）

②ストーリーのブラッシュアップ（コンセプト固め）

③新コンセプトによるプロモーション計画の策定

「神話のまち」を軸とした観光振興の推進においては、新たなコンセプトに基づく情報の再編集と、ターゲットを明確に定めたプロモーション計画の策定が必要。

②新コンセプトに基づいたコンテンツの造成

現在も神話・神楽に関連するガイドツアーなどが行われているが、高千穂の生活・文化までを加え、よりテーマ性があり、付加価値の高いコンテンツの造成が必要である。そのためには、観光関連団体、観光関連事業者のみでなく、夜神楽を継承する集落、農業や飲食店、商工自営業者などの**多様な主体との連携**が求められる。

町民調査では、「マナー厳守、人数制限などを行ったガイドツアーなどを通し、観光客が夜神楽に接する機会を提供する」、「他地域で神楽を継承する人たちとの交流の場を増やす」等を求める回答が比較的多く見られたが、観光・交流を各集落での**夜神楽の継承に寄与するために、どのようにつなげていくかといった仕掛けづくり**などの、具体的な検討が必要である。

次年度の取り組み

①ターゲットを設定した高付加価値コンテンツの造成

近年、アドベンチャーツーリズムなど、訪れた地域の歴史、生活・文化を深く知りたい、体験したいとする旅行や、滞在型の旅行者向けのコンテンツが注目されている。「神話のまち」イメージを打ち出すためには、このような旅行者が満足できるコンテンツを造成し、発信していくことが重要である。

②夜神楽継承の取り組みにおける仕掛けづくり

観光・交流を夜神楽の継承などの取り組みにつなげていくための仕掛けづくりを、上記コンテンツ造成と併せて検討する必要がある。

3. 「日本一の神話のまちづくり構想」の策定

③ 神話・神楽を伝える受入環境整備／拠点づくり

町民調査では、神楽の継承において必要と思う取り組みとして、7割弱と多くが、「若い世代に高千穂の神話・神楽の意味を伝えていく機会を増やす」を挙げており、来訪者に向けてだけでなく町民に対し、**神話・神楽の価値を伝えるための取り組み・接点づくり**が必要だとしている。また、町民調査、事業者調査ともに駐車場不足や交通インフラの整備とともに、観光案内の不足が指摘されており、来訪者に対し**神話・神楽のまちの魅力**を伝える案内情報（案内内容と案内方法）の整備が求められる。

事業者調査では、神楽の情報を提供し体験できるような施設の必要性についてのコメントも比較的多く挙げられている。神話・神楽のまちとしての今後の取り組みにおいて、町民と旅行者に求められる機能を整理した上で、現在の歴史民俗資料館を含め、施設整備の検討を具体的にを行う必要がある。

本事業における調査、有識者ヒアリングで挙げられた拠点施設に求められる機能としては、神話・神楽の情報の収集・情報提供、神楽の上演、各集落における夜神楽のアーカイブ、継続的な研究活動、関連コンテンツの造成、継続的なガイド育成、研究者や全国の関係団体との交流等の機能を持つ象徴的な拠点づくりなどが挙げられている。

今後の取り組み

① 神話・神楽を伝える拠点整備（プラン作成）

今年度調査では、町民、事業者、旅行者の各視点から、神話・神楽を伝える拠点となる施設の必要性が確認できた。調査結果を踏まえ、改めて、拠点に求められる機能を整理し、具体的なプランを作成する。

② 「神話のまち」としての受入環境整備（プラン作成）

町民調査・事業者調査では、案内版の設置、駐車場や道路の整備などの環境整備を求めるコメントが多数挙げられた。来訪者に、関連資源の価値を伝え、各スポットへの来訪を促すことにより、「神話のまち」の魅力を感じてもらえる統一的な案内板の整備（多言語対応）などが必要である。

④ その他の課題

町民調査、事業者調査ともに、観光振興の恩恵を受けるのは特定の地域のみという、不公平さを感じている人も見られる他、住民の観光に参画することが少ないことなどが指摘されている。

観光資源が集中する地域のみではなく、神楽を伝承する個々の集落や、町全域の資源を想定したコンテンツ作り、交流の仕掛けづくりを進め、町民の参画を促す体制づくりが必要である。

今後の取り組み

● 町民への活動内容の情報共有

特定の地区でのモデル事業を実施する際は、その枠組みが他地区でも展開可能であることを前提とする。モデル事業の内容や進捗状況を町全体に情報共有することで、町民の理解を得ながら事業を進める。これにより、将来的に他地区での同様の取り組みがスムーズに行えるよう準備する。

3. 「日本一の神話のまちづくり構想」の策定

今回の事業内容、及び、今後の展開について、有識者・専門家より意見を聴取した。
概要は以下の通り。

有識者・専門家のコメント概要	
(株)ワンダートランク&カンパニー 代表取締役共同CEO 岡本 岳大氏	<ul style="list-style-type: none"> ・高千穂を高千穂峡や天岩戸神社のようなスポットメインで訴求するのではなく、「神楽・神話」を軸に、テーマ型コンテンツを造成して観光地づくりをしていくことは、差別化に繋がり、地域としての競争性を高める。異日常を想像させる興味深いテーマである。同時に祈りというものの価値を見直すという現代的な意義もある。 ・一方でインバウンドでこのテーマを掲げようとする、訴求の仕方には工夫が必要。神話(Myth) というのは、多かれ少なかれの国・地域にもあり、それぞれ全く異なるイメージや価値観がある。このようなテーマを海外の旅行者やメディアなどに紹介するときは、神話そのものよりも、神楽(目に見える文化)、さらに神楽の演目の詳細よりも、それを舞っている人たち(今を生きる世代)との交流など、「目の前・今の時代で、実際に見たり聞いたりできるもの」前面に出したほうが、関心が高まると思われる。
くまの体験企画 代表 内山 裕紀子氏	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が必要とする宿泊施設・飲食・交通・お土産などに課題があるものの、高千穂には圧倒的な強みがある。観光客や車がない夜の高千穂神社周辺の厳かな神社の良さ、狭い地域に多くの聖地が密集しているコンパクトさ。特殊な地形や景観から、この場所が(天岩戸神社の周辺も同様に)岩場で育つ生命力を感じさせる植物やご神木、点在する観光地化されていない小信仰の地として知られる理由が理解できる。知名度のある地域でありながら、なかなか訪れることが難しいスポットが点在しており、訪問時間や季節によって楽しみが増す、魅力的な地域である。 ・郷土料理、ガイド付きツアー、サイクリング・マウンテンバイクツアー、夜神楽オプションなど、高千穂の強みを活かしたコンテンツ造りが求められる。
地域創生ソリューション(株) 執行役員 地域戦略担当 小里 貴宏氏	<ul style="list-style-type: none"> ・観光活性化・地域創生を目的とした不動産・ベンチャー投資においては、伝統建築物再生などの文脈において、地元金融機関と連携し、社債で参画・支援するモデルが多くある。地域のまちづくりにおいて、古民家再生などが導火となって「まち」に火が灯るようにカフェができた。移住者が増えたりしている事例が見受けられる。「伝統建築物保存エリア」やそれに該当する「通り」があると民間活力を呼び込みやすい。 ・民間が資金投入できそうなエリアや物件を整理すること、およびそのエリア周辺をバリューアップするために行政が整えるべき施設などを統合的に議論、設計していくことで、効果的なまちづくりになる。

地域の関係者及び有識者による検討会の開催

下記の通り検討会を3回開催。九州運輸局同席のもと、一般社団法人高千穂町観光協会、高千穂町、有識者、観光関係事業者および神楽関連団体等を構成員とした。

開催場所：天岩戸交流センターあまてらす館

	開催日時	検討内容
第1回	2024年9月19日(木) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の目的・方針共有 ・各種調査の方法・内容について確認・検討 ・天岩戸地区のまちづくり、あるべき将来像について意見交換 ・現状と課題について意見交換
第2回	2024年12月18日(水) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査進捗状況報告 ・「日本一の神話のまち高千穂」の実現に向けたまちづくり構想(骨子検討案)について
第3回	2025年2月26日(水) 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査進捗状況報告 ・「日本一の神話のまち高千穂」まちづくり構想(案)について ・ロードマップについて



●参加者(組織・団体名)

観光庁(オンライン)	九州運輸局
有識者	高千穂町観光協会
高千穂町役場	教育委員会
天岩戸まちづくり協議会	いわとむら
この花	むか造園土木
天岩戸神社宮司	神楽の館
天岩戸木彫	高千穂伝承協議会事務局
笹の戸公民館館長	後藤商店